

知事と区市町村長との意見交換（武蔵野市）

令和1年10月2日（水）

13時20分～13時40分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 松下市長、都庁まで御足労いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃からの都政運営に対しましての御支援、誠にありがとうございます。御理解、ありがとうございます。

今日は長期戦略を描く中で、武蔵野市としての考え方等を伺っていきたくと考えておりますので、限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

また、女性の自治体の長の会を催します。ぜひ女性を切り口に経済をより刺激していこうという会ですので、楽しみにお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは松下市長、よろしくお願いいたします。

○武蔵野市長 それでは都の長期戦略ビジョンや長期戦略との施策に関連をして、各市の重要施策及び都に望むことということでございますので、武蔵野市において今後も持続する自治体を目指していくうえで、特に力を入れております環境、そして子育て、この2つの分野において特徴ある事業、また都の施策の方向性にも合致するものとして、大きく2点、本日は御紹介をさせていただきたいと思っております。

申し遅れました、武蔵野市長の松下玲子と申します。よろしくお願いいたします。東京都の御理解と御支援についてもお願いできたらと考えています。

まず1点目です。環境に関する取組です。最初の画面ですが、こちらはちょっと小さいですけれども、武蔵野市役所から見たちょうどお隣の北側にあるクリーンセンターです。クリーンセンターはごみ焼却場であります、清掃工場です。市役所の向かいに立地をして、周辺住民の御理解をいただき、2017年に新施設が稼働いたしました。地域に開かれた施設づくり、エネルギーの地産地消等が評価され、2017年グッドデザイン賞も受賞いたしました。

今、整備をしていますのが、ちょうど黄色の部分なんですけれども、左側の旧クリーンセンターの一部を再利用した、来年2020年11月オープンを目指す、環境啓発施設エコプラザ（仮称）となっております。

このクリーンセンターではエネルギーの地産地消や、災害に強い施設づくりが進んでいます。ごみの発電エネルギーを市役所、そして総合体育館、地域コミュニティセンターに供給をしています。また、ガス・コージェネレーションを併設しており、災害時にも周辺公共施設へエネルギー供給できるシステムとなっております。さらに蓄電池エネルギーマネジメントシステムを設置し、ごみ発電の夜間余剰電力を昼間の電力へ転換する、エネルギー地産地消プロジェクトというものを、今現在進めているところです。

これは国の補助も受けておりますが、非常に先進的なエネルギー施策であり、都の財政支援もぜひお願いできたらなと思っております。

先ほど御説明をしました、今整備中の環境啓発施設エコプラザ（仮称）についてでございます。ごみの収集車がごみを搬入をしていましたプラットフォームを活用するものです。ちょうど右の下に見えますのが、こちら旧クリーンセンター時代のプラットフォームで、ごみの収集車がそこに、白い所が開いて入って行く形だった所です。こちらを活用して新たな環境啓発施設を整備をしているところです。

ここでは市民、大学、企業等の参加により、ごみだけでなく様々な環境問題を共に考え、一人一人がSDGs達成に貢献する行動を促したいと考えております。

このエコプラザの取組については、アートディレクターの森本千絵さんにも監修といたしますか、アイデアをちょうだいしているところで、環境問題を広く武蔵野市から発信をしていきたいと考えております。

こちらは新しい試みでございますので、ぜひともまた様々な御助言等や御支援等もお願いしたいと思っております。

昨年度、このクリーンセンター、ごみ焼却場の見学者コースで東京観光財団さんの御支援をいただき、「ごみピットバー」という事業を開催いたしました。ごみピットの前のカウンターで、ちょうど上から2枚目の右の写真なんですけれども、ごみを攪拌しているクレーンがごみを拾い上げているところをガラス越しに見ながら、カウンターでカクテルを飲み、ごみ処理の大変さを理解してもらうという企画で、国内外のメディアにこちらは取り上げられて、大変な話題となりました。環境と観光のコラボが評価され、2019年度産業観光まちづくり大賞奨励賞も受賞いたしました。

昨年はこちらは東京観光財団さんからの100%の補助という形で事業を実施できまして、2年目は50%の補助となり、収支が非常に厳しいところではありますが、私共としても今この事業のスキームをしっかり考えています。持続可能な市民やまた市外の皆様にも、ごみや環境について考えていただくきっかけになる、大変おもしろい事業だと思いますので取り組んでいきたいと思っております。

次に子育て関連の施策について御紹介をいたします。今年度から実施をしております、保育施設における使用済み紙おむつの回収事業です。保育所等では園児の使用済み紙おむつについては、各家庭で持ち帰り自宅で処分することが、こちらは原則となっております。

そのため、保育士が園児ごとに分けた使用済みの紙おむつをトイレ内等で保管をする等、保育所内の衛生環境面において課題がありました。また、保護者が使用済みのおむつを持ち帰るということは、着替え等に加えて荷物がとて多くなります。また、衛生的な面でも使用済みの紙おむつを持ったまま、スーパーにお買い物に行く等、保育園の帰りにですね。非常に買い物がしづらいということも、様々御意見としていただいております。保護者の負担にもなっていました。入園説明会ではおむつの持ち帰りの有無が必ず質問にもあることから、保護者の関心の高さというのが伺われました。

そこで武蔵野市では、保護者と保育施設の衛生面の改善、負担軽減を図るため、今年の4月から市内の認可保育所、認定子供園、地域型保育事業、都の認証保育所を対象に、園児の使用済み紙おむつについて、独自で回収処分をしております。

保育士がおむつ処理に掛けていた時間がなくなったことで、保育に余裕ができ、また保護者にも帰宅時の負担が少なくなったと、こちらは大変御好評をいただいております。

本事業は東京都の2020に向けた実行プラン、子供が安心して産み育てられるまち、地域で安心して子供を産み育てられ、子供達が健やかに成長できる社会の実現の趣旨に合致するものです。ぜひ本事業に対する財政支援についても、お願いしたいと思います。

以上、少し駆け足になりましたが、武蔵野市の2つの事業について御説明をさせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

○知事 いくつかのポイントでお話を伺いました。そして、まず最初の気候変動や環境対策の部分で、いかにしてゼロエミッション東京を実現するかというのは、それぞれの分野で、それぞれ皆さんに頑張ってもらって、その総体として結果としてのゼロエミッション東京になることかと思えます。

例えばこの第一庁舎というんですけれども、45階建てですが、ここの必要な電力を再生エネルギーで、グリーン調達で賄うということで、RE100という考え方があります、Renewable Energy 100ですね。One hundredで。だから再生エネルギーで100%賄うというのは、例えばグーグルとかああいうアメリカや欧米の企業等は、その工場であるとか、会社の建物を再生エネルギーで賄うことを、一つのCSRであると。SDGsの中の地球環境問題、気候変動にも資するというので、逆にそれをPRにも使っているんですね。思うに、武蔵野市役所は、それを達成しておられるんじゃないかと思うので、計算きっちりされて、武蔵野市役所はRE100を達成しましたって宣言されたら、一つのまたムーブメントになりますし、ぜひそこら辺を研究されたらいいと思います。

そのことをまた市民の皆さん、とても環境に熱心な市民の方も多い武蔵野市だと思いますので、ぜひそういう形でなさったらどうかと、お話を聞きながら思ったところであります。

このゼロエミッション東京というのは、2050年に世界のCO2排出量の実質ゼロに貢献するための施策で、まさしく長期ビジョンであります。

お話にありました、クリーンセンターを拠点としてエネルギーの地産地消を行っていく、それから環境啓発等、大変総合的に取り組んでおられて、敬意を表したいと思います。

また、都としましても武蔵野市の実情、今日お話も伺ったわけでもありますけれども、この件についてはゼロエミッション東京を実現するためにも、各それぞれの所にも御協力をお願いしたいという点でも、また熱心に取り組んでおられる武蔵野市だからこそ、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。また、その点では適切な支援に努めてまいります。

紙おむつ、とても都民の皆さんにとっては、またお子さんにとっては極めて身近な話だと思います。子育て支援について、待機児童の解消ということを大変重要視しております、こちら武蔵野の方もこのところ順調に待機児童数は減っているかと思えます。

一方で受け皿の整備を進める、量の確保に努めるだけでなく、安心して子供を預けられる質の向上、この両面の取組が必要だと考えています。だからこの質の観点からも、使用済みのおむつをどのような対処の仕方をするのか。園での処分または保護者による持ち帰りというのは、一つ極めて身近なテーマとして話題も呼んでいるところですけど、それぞれ園の判断もあるかと思えますけれども、良好な保育環境の実現という点でも、都としても地域の実情に応じた適切な支援に努めていきたいと考えています。

○副知事 先ほどの観光と環境のコラボという意欲的な取組のお話の中で、東京観光財団の補助のお話がありました。従来、こういった補助は単年度の支援でございましたけども、その事業がより事実的に発展するよう、複数年度の支援といたしました。

確かに2年目以降の補助率は下がるというのは事実でございますけど、この事業の他にも観光情報の発信であるとか、新たな旅行商品の開発をはじめとした地域の振興に対する様々な支援も行っておりますので、こういったものをぜひ組み合わせていただければというふうに思います。

今後も地域の皆様と連携して、さらなる旅行者誘致に向けて、一体で取り組んでまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○知事 SDGsのバッジを付けられて、大変熱心に取り組んでおられる。これは思ったんですけど、グッドデザイン賞も既に受けられて、このエコプラザとか、入り口の所がいっぱい壁があるから、SDGsの17色に染めたら分かりやすいのになど。

すごくカラフルですけどね。そんなお金掛からないと。

○武蔵野市長 クリーンセンター自体の一带の敷地が、いよいよ来年の11月の環境啓発施設をもって完成しますので、今はどちらかと言うと緑ですね。レインガーデンといって、雨水を浸透させるような木々を植えたりとか、草を植えて、これから芝生も整備していきます。

あとごみ処理場というのは、場合によっては迷惑施設と受け取られてしまうこともありますが、そこを市民の皆様にも足を運んでもらえるような、今、屋上では野菜の栽培も行っていきます。子供達に収穫体験もしていただいているので、ごみは切っても切り離せないものですので、遠ざけることなく、日常生活の中で取り入れながら共存、共栄、地域でしていきたいという思いで、今取り組んでおります。

先ほどもっとPRですね。RE100ですとか、そういうPRをという話をいただきまして、ありがとうございます。なかなか広報の難しさというのを、私も市長になって感じています。

こちらがどう発信をしていくか、どう市民の皆様をはじめ伝えていくかは、これは知恵を絞らないといけないなと思っていますので、いいことをやっても発信力が弱かったり、説明の仕方が悪いと伝わりませんので、そこは工夫して取り組んでいきたいなと思いました。ありがとうございます。

○行政部長 まだもうちょっと時間ありますが、いかがですか？

○武蔵野市長 そうですね。森本千絵さん、今度東京国際映画祭のオープニングの寅さんのお仕事に取り組まれていて、アイデアをすごくいろいろお持ちの方なので、お力をお

借りしながら環境啓発施設、今、エコプラザが仮称なので、市民の皆様と森本さんにも入っていただいて、ネーミングのワークショップをしております。これから名前を決めていくということで、楽しみです。また名前が決まったら、またそこを中心に環境について、市からもしっかり発信をしていきたいなと思っています。

あとは子育ての部分で、先ほど小池都知事がおっしゃったような、量と質がこれ共に重要だと、本当に思っておりますので、私ども武蔵野市は来年の4月で待機児童ゼロを実現したいとの思いで、今も新規の認可施設2施設を建設中でございます。

地域の皆様に理解をいただきながら、新しい保育施設をつくり、またそのうえで保育の質の向上に取り組んでいきたいと思っております。

○行政部長 ではそろそろお時間になりますので、最後に知事から一言お願い申し上げます。

○知事 市民の皆さんにとって環境、子育て、2大テーマだと思います。それからごみを見ながら楽しむというのも、大人の社会科見学というのは結構皆さん興味あるところだと思いますので、いろいろ工夫しながら、むしろ儲かって困るわ、ぐらいの知恵でやっていただければと思います。

またそれを他の所も、私も昔、江東の一番大きいクリーンセンター、あれを見に行くと、結構ダイナミックでおもしろいなと、皆で見に行ったんですけどね。大人の社会科見学に行きました。ですから市民に呼び掛ければどんどん来られるんじゃないですかね。いろいろ頑張ってください。よろしくどうぞ。

○武蔵野市長 ありがとうございます。

○行政部長 では、意見交換終わらせていただきます。ありがとうございました。

○武蔵野市長 ありがとうございます。